HIV 感染症の治療開発に関する研究

＜エイズ対策研究＞

これまでにすでに分かっていたこと、達成されていたこと

HIVに対する薬剤が開発がされてから、先進国ではエイズの発症者や死亡する患者が激減した。しかし、これらの薬剤に耐性を示すHIVが出現し、治療が困難な状況が出てきた。

今回の成果

耐性ウイルスに有効な新たな薬剤の開発と免疫療法の開発によるＨＩＶ感染症の治療開発を試みた。その結果、HIVプロテアーゼ阻害とプロテアーゼ二重体化阻害という二つの機序を有する薬剤であるDarunavir（PREZISTA)の開発実用化（平成18年に実用化、日本では平成19年に認可）をもたらした。また現在2種類の薬剤の臨床試験が実施されるに至っている。

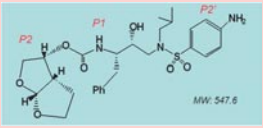
一方、免疫療法の開発を行うために、HIV-1の増殖を強く抑制する細胞傷害性T細胞とHIV-1に結合しウイルスを中和する抗体を明らかにし、その結果、１種類の中和抗体の臨床試験が開始された。

さらに臨床試験をめざして、多くの薬剤候補、抗体、T細胞にて前臨床試験を展開している。

今回の成果の意義

新たなHIV治療薬を開発し、エイズ治療に貢献できた。また今後治療薬として期待できる薬剤、免疫療法が臨床試験に入った。

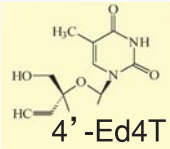
1) 新しいエイズ治療薬 Darunavir の開発・実用化に成功

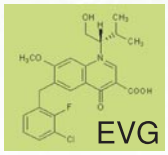


実用化成功

日本で
平成 19 年 11 月に認可

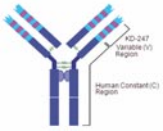
2) エイズ治療薬 4’-Ed4T と Elvitegravir (EVG) の開発





臨床試験中

3) HIV-1 中和抗体（C25）によるエイズ免疫療法の開発



臨床試験中

4) 強い機能を持った細胞傷害性 T 細胞による免疫療法の開発

細胞療法の検討